

平成27年国勢調査結果（確報）
塩尻市の世帯数及び人口

平成28年11月4日
塩尻市企画政策部企画課統計係

平成27年10月1日現在で実施された国勢調査の「人口等基本集計」が総務省統計局より公表されました。

平成27年国勢調査 塩尻市 世帯数・人口（人口数：県内19市中8番）

世帯数	人口総数	男	女
26,350世帯	67,135人	33,347人	33,788人

1 世帯数・人口

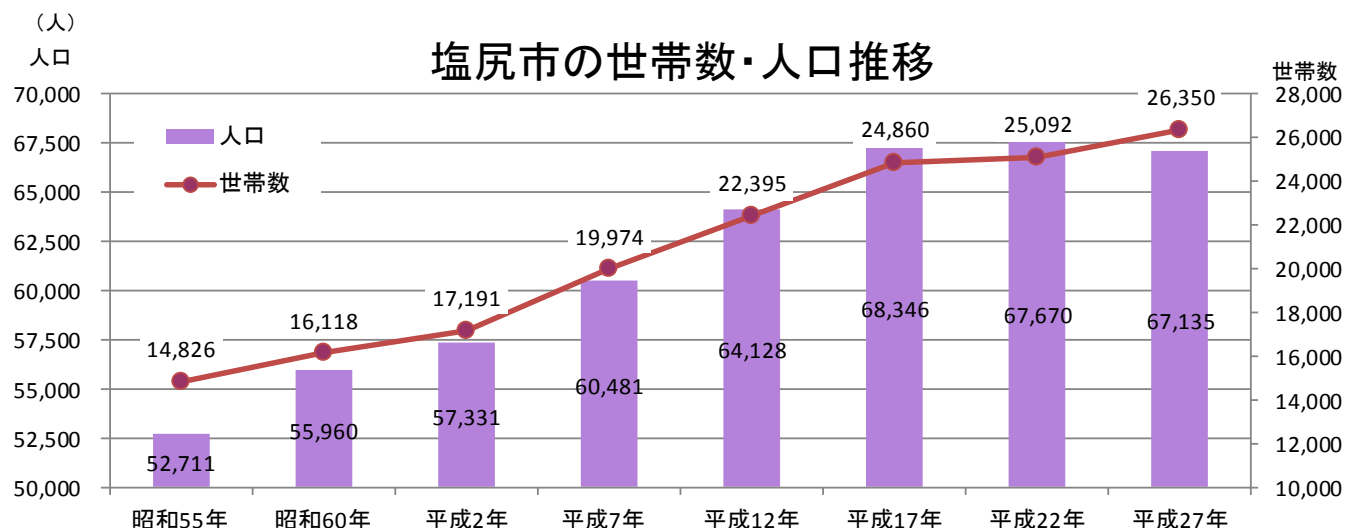
平成27年10月1日現在の本市の世帯数は、26,350世帯となり、前回調査に比べ1,258世帯（5.0%）増加しました。人口は67,135人となり、前回調査に比べ、535人（ $\Delta 0.8\%$ ）減少し、1世帯あたりの人員は2.5人で、前回調査の2.7人から0.2人減少しています。

前回に引き続き、世帯数は増加、人口減少率 $\Delta 0.8\%$ は前回の減少率 $\Delta 1.0\%$ から上昇し、減少幅は緩和されています。

国勢調査 世帯数・人口の推移

各年10月1日現在

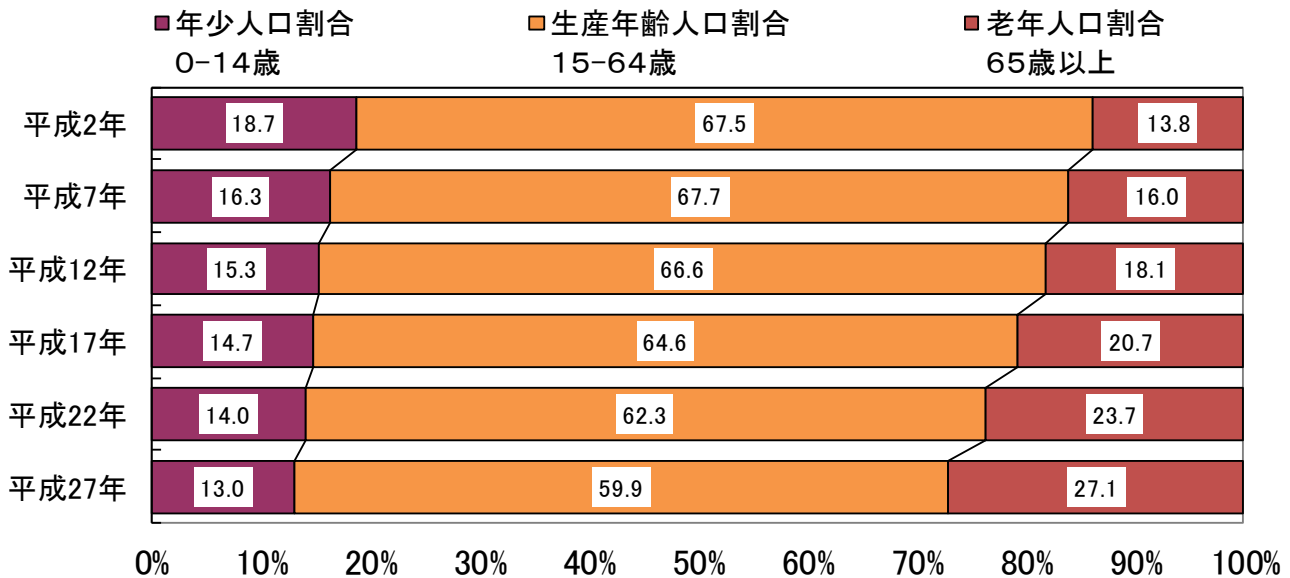
年	世帯数	人口（人）			人口増減数（人）	人口増減率（%）	一世帯あたり人口（人）
		総数	男	女			
昭和55年	14,826	52,711	26,009	26,702	5,290	11.2	3.6
昭和60年	16,118	55,960	27,752	28,208	3,249	6.2	3.5
平成2年	17,191	57,331	28,370	28,961	1,371	2.4	3.3
平成7年	19,974	60,481	30,131	30,350	3,150	5.5	3.0
平成12年	22,395	64,128	31,904	32,224	3,647	6.0	2.9
平成17年	24,860	68,346	33,909	34,437	4,218	6.6	2.7
平成22年	25,092	67,670	33,533	34,137	$\Delta 676$	$\Delta 1.0$	2.7
平成27年	26,350	67,135	33,347	33,788	$\Delta 535$	$\Delta 0.8$	2.5



2 年齢3区分人口構成の推移

3区分人口構成割合は、年少人口が8,692人で全体の13.0%、生産年齢人口は40,175人で59.9%、老年人口は18,203人で27.1%となっています。(年齢不詳者を除く)それぞれの年齢3区分割合の推移を見ると、年少人口と生産年齢人口は減少を続けており、老年人口は増加が続いています。

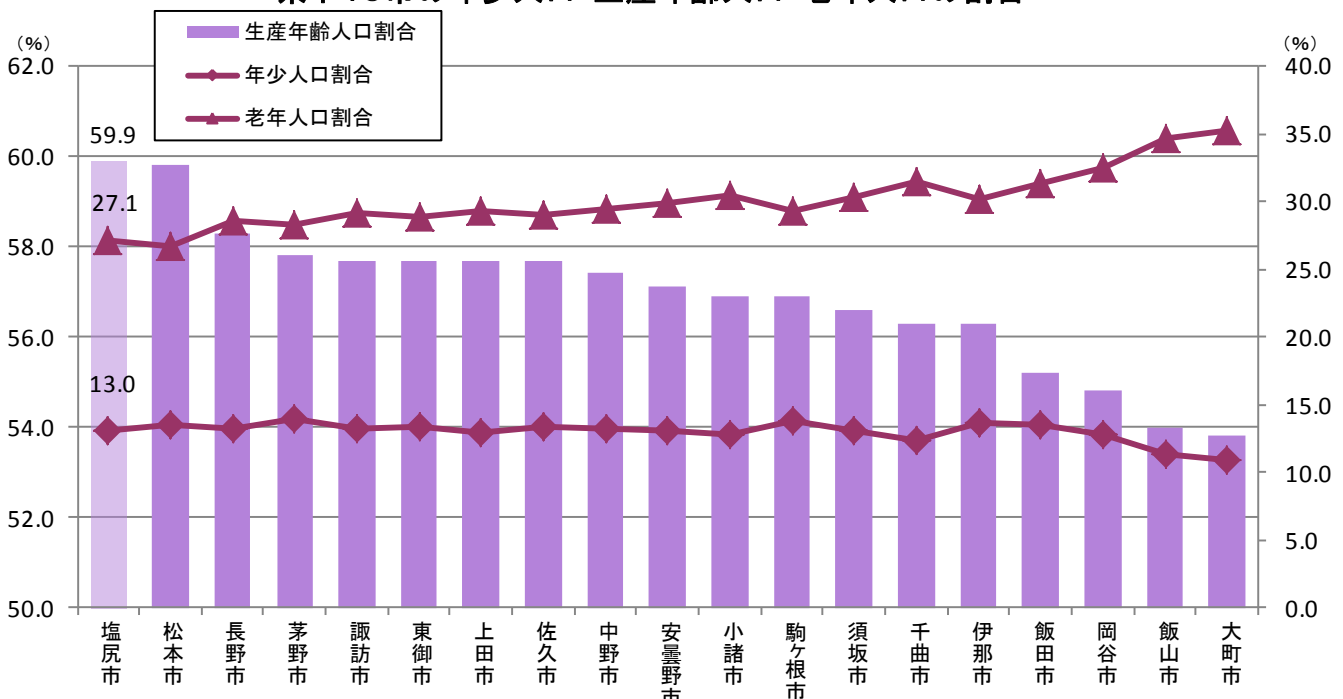
年齢3区分別人口構成の推移と比較



☆ 県下19市中 生産年齢人口割合1位・老年人口割合18位

県内19市中、本市の生産年齢人口割合(59.9%)は最も高く、老年人口割合(27.1%)は18位と低い数値となり、年少人口割合(13.0%)は13番目でした。

県下19市の年少人口・生産年齢人口・老年人口の割合



平成27年
19市 年少人口割合

順位	市	%
1	茅野市	13.9
2	駒ヶ根市	13.8
3	伊那市	13.6
4	松本市	13.5
5	飯田市	13.5
6	佐久市	13.3
7	東御市	13.3
8	諏訪市	13.2
9	中野市	13.2
10	長野市	13.2
11	須坂市	13.1
12	安曇野市	13.0
13	塩尻市	13.0
14	上田市	12.9
15	岡谷市	12.7
16	小諸市	12.7
17	千曲市	12.3
18	飯山市	11.3
19	大町市	10.9

平成27年
19市 生産年齢人口割合

順位	市	%
1	塩尻市	59.9
2	松本市	59.8
3	長野市	58.3
4	茅野市	57.8
5	諏訪市	57.7
6	東御市	57.7
7	上田市	57.7
8	佐久市	57.7
9	中野市	57.4
10	安曇野市	57.1
11	小諸市	56.9
12	駒ヶ根市	56.9
13	須坂市	56.6
14	千曲市	56.3
15	伊那市	56.3
16	飯田市	55.2
17	岡谷市	54.8
18	飯山市	54.0
19	大町市	53.8

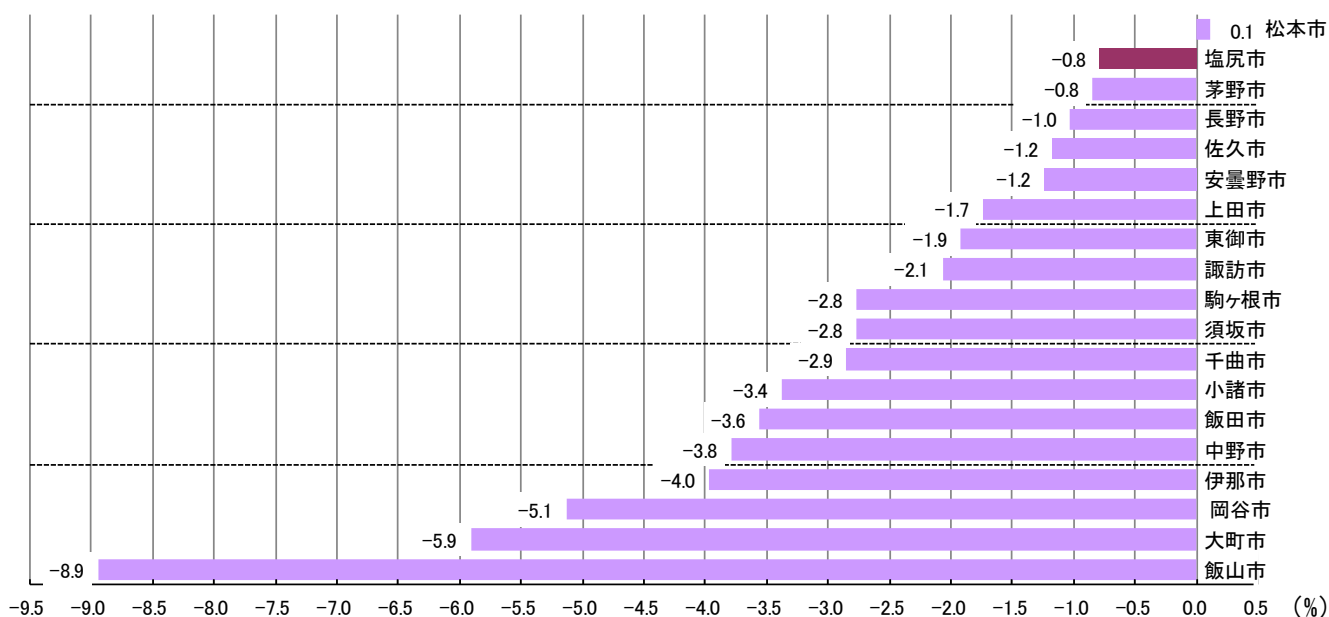
平成27年
19市 老年人口割合

順位	市	%
1	大町市	35.3
2	飯山市	34.7
3	岡谷市	32.5
4	千曲市	31.4
5	飯田市	31.3
6	小諸市	30.4
7	須坂市	30.3
8	伊那市	30.1
9	安曇野市	29.9
10	中野市	29.5
11	上田市	29.3
12	駒ヶ根市	29.3
13	諏訪市	29.1
14	佐久市	29.0
15	東御市	28.9
16	長野市	28.5
17	茅野市	28.3
18	塩尻市	27.1
19	松本市	26.7

3 19市の人口増減率

県内19市中、人口が増加したのは松本市だけでしたが、本市は前回調査に比べ人口増減率は△0.8%で、2番目の少なさとなっています。

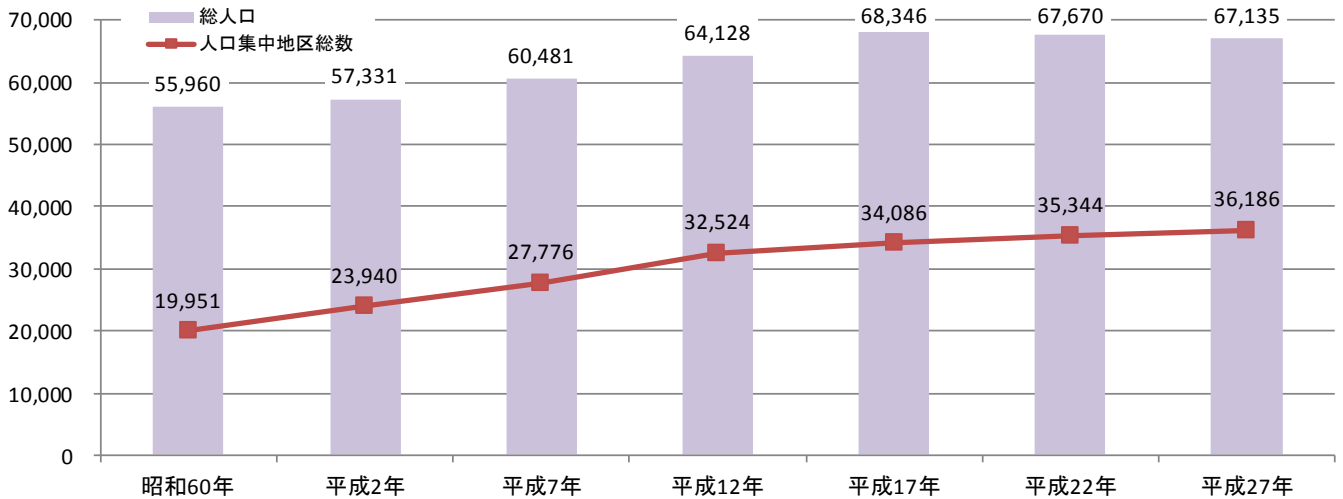
平成27年国勢調査 19市の人口増減率(対平成22年国勢調査)



4 人口集中地区の増減

人口集中地区(※)は、都市的地域の特質を明らかにする統計上の単位として、昭和35年の国勢調査から設定されました。大門、塩尻東、高出の一部の地区と広丘地区、吉田の一部の地区の2つの人口集中地区があり、今回の調査では2つの地区を合計すると36,186人で、前回調査に比べ8,422人(2.4%)増加しました。平成17年以降の調査から総人口が減少する中、人口集中地区においては引き続き人口が増加しています。

人口集中地区人口の推移

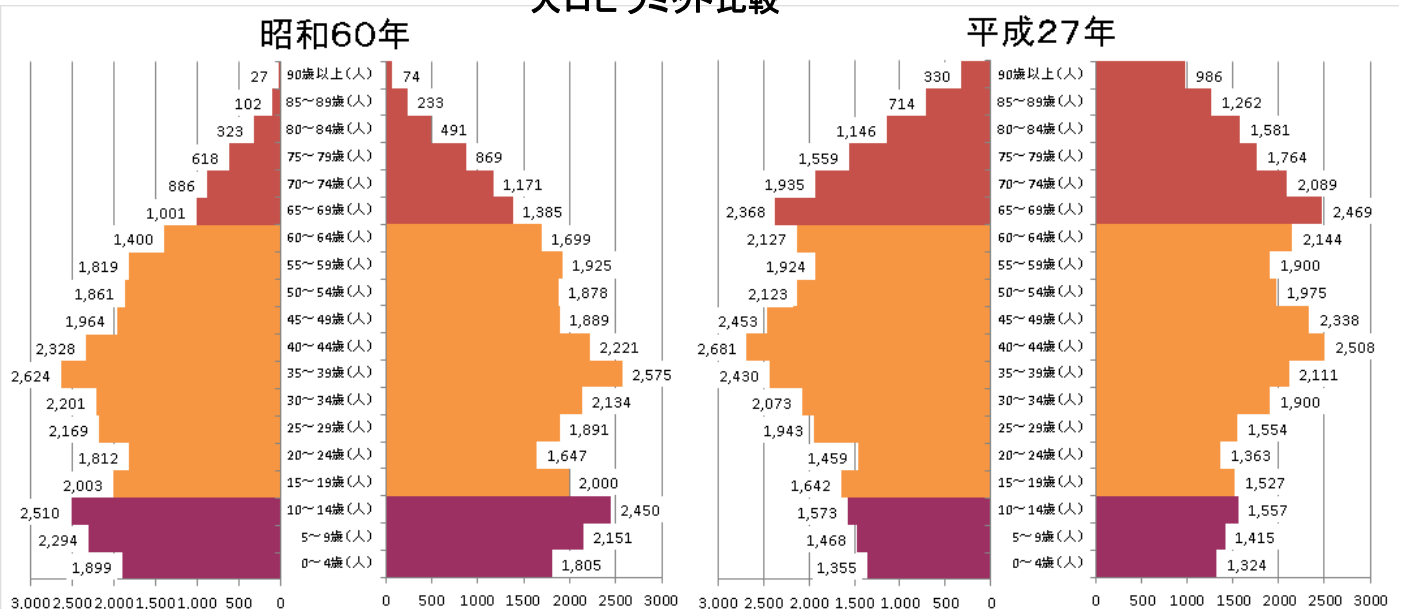


『※人口集中地区』…人口密度の高い調査区(原則として人口密度が1km²当約4,000人以上)が隣接していて、調査時に人口5,000人以上を有する地域を構成する地域

5 年齢別男女別人口(人口ピラミッド)

男女別人数は、男性33,347人、女性33,788人で女性が441人多くなっています。それぞれの年齢ごとの人数をグラフ化したものが次の「人口ピラミッド」になります。1985年の人口ピラミッドの形は橋の欄干に乗っている擬宝珠(ぎぼし)のような形をしていましたが、30年経過した現在は、第1次ベビーブームの世代が老年人口の時期となり、第2次ベビーブームの世代が生産年齢人口の中核となるなど、壺のような形となっています。老年人口は、1985年に7,180人だったのに対し18,203人(153.5%)年少人口は13,109人に対し8,692人(△33.7%)となり、本市においても今後さらに少子高齢化の傾向が進むと推測されます。

人口ピラミッド比較



※但し、年齢不詳は含まれていません。

6 推計人口等との比較

国勢調査は住民票の有無に係らず、10月1日現在、本市に居住する人全員（外国人を含む）が対象となるため、住民基本台帳人口とは基準が異なります。

また、前回の国勢調査人口（67,670人）をベースに、毎月の人口異動を加減した毎月人口異動調査の人口が一つの目安となります。

本市においては、住民基本台帳人口を下回ったものの、毎月人口異動調査の人口を上回るとともに、塩尻市人口ビジョンの目標人口、国立社会保障・人口問題研究所の推計人口を上回りました。

（基準日：平成27年10月1日）

項 目	世帯数（戸）	人 口（人）
国 勢 調 査	26,350	67,135
毎 月 人 口 異 動 調 査	26,214	66,881
住 民 基 本 台 帳 人 口	26,577	67,604
塩 尻 市 人 口 ビ ジ ョ ン	—	66,866
国立社会保障・人口問題研究所推計人口	—	66,494

7 現在考えられる人口動態傾向

- （1）平成27年10月までの5年間の毎月人口異動調査では、自然動態（出生・死亡の差）による減少が477人であり、国勢調査の人口減少（△535人）の主要因と考えられます。
- （2）外国人人口は、平成22年（1,364人）から平成27年（1,091人）までで273人減少（△20.0%）しており、人口減少の要因です。
- （3）一方、人口集中地区の人口は、平成22年（35,344人）から平成27年（36,186人）にかけて842人増加（2.4%）しており、この地域を中心に社会動態の増加が自然減少や外国人の減少をカバーしていると考えられます。

これらは、国勢調査人口が、人口ビジョンや推計人口を上回った主要因と考えられますが、今後も、順次総務省から公表される調査結果について、県と連携しながら独自に詳細な分析、検証を行っていきます。